



ワイドローに見えらるが、エアロでは10mmしか下がっていない。巧みなデザインが低さを演出する。



前方に飛び出しているように見えるが、全長で+30mmと数字以上の立体感がある。



リフレクターをボディの底に配置することで、ワイドローをより強調する。



# 世界に誇れる究極のエコカーを エコカーに昇華させた絶品プリウス

ハイブリッド車に抱く既成概念を打ち破ってくれる  
絶品プリウスがプリウス“Black Edition”だ。  
最新トレンドをふんだんに取り入れたメイキングを見て欲しい。



AERO TECH JAPAN

# PRIUS“Black Edition”

最新のトレンドを取り入れ  
プリウスを熟成させた

世界中のクルマで、間違いなく一番エコロジーなのはプリウスだ。カテゴリー上の燃費はリッター38km（Lグレード）と、技術にガソリンの消費量が少ない。いわば最も先進的でインテリジェントな乗り物といわれた。

そんな世界一「優等生」であるプリウスを大胆にモディファイしたのがエアロテックジャパンのプリウス・ブラック エディションだ。前項で紹介した「もっとエコカープロジェクト」の旗艦コンパクトカーであり、同社のエアロパーツやマフラーをはじめ、韓国メーカーのアイテムで内外装ともに最新のもかスタムが施されている。まずは究極のエコカーのメイキング術を解説する前に「私人ブランド エディション」という同社のブランドを説明したい。以前「サ・マイカー11月号」で紹介したRANDOSIVIEというブランドは、純正+αの一体感をテーマに開発されたモデルで、純正バンパーを活かしたハイファイブのエアロパーツだった。一方の「私人ブランド エディション」は、クルマの存在感をガラリと変えることが可能なフルバンパータイプを採用する。デザイン上の制約が取り払われ、格段に自由にデザインできるのだ。

それではフロント周りから見ていこう。まず目を引くのがサイド

部に設けられた縦3段ダクトにビルトインされている専用LEDランプだ。このLEDをテイルライトとして光らせるのは、最初アレンジでも上級の部類だ。そして良く見るとウインカーとフォグは純正をそのまま活かしている。バンパーのライン&ダクト形状を大きく変え存在感をアピールしつつ、プリウスらしさは失われていないのはさすがだ。そして、サイドには控え目に前後バンパーのバランスを保つ役割を果たし、デザインはリヤへと流れる。リヤ側のトピックは、完全専用設計のマフラーに目を奪われがちだが、立体的にデザインされたディフューザー形状やワイドローを演出するLEDリフレクターの配置など、計算し尽くされたセンスが光る。



## RAY'S A/X RePLA/Y BRIONAC

インストールされるホイールは、レイスの最新ホイールA/X RePLA/Yシリーズ。アルミ合金のクランプ構造を採用することで剛性を高めるホイールだ。詳しくは16、17ページにて。